

編 集 後 記

本誌は1989年、昭和と平成のはざまに誕生した。筆者は請われて、その創刊から深く関わってきた。発刊当初、目標とした二つの大事な事柄がある。実地医家からの投稿奨励と、年間複数回の刊行実現である。その二つとも、実現には程遠いと言わざるを得ない。

原稿を論文として完成させるには、いくつものハードルがある。まず文献検索である。多忙な日常診療の傍ら、PCを操作しての文献探しは、大学人でない開業医の先生方にとって容易なことではない。同様に統計処理に当たって求められる危険率の算出も、慣れないと困難であろう。時代と共に変化するバリアーもある。症例報告の場合、対象となった患者さんの同意を得るのが、一般的な趨勢である。医師对患者の信頼関係だけではなく、倫理的な配慮を文書の形で残すことが求められる。ましてやCOI(利益相反)の開示に至っては、一体、何のことだと問い返されそうである。

年間複数回の刊行、これは大学に所属する先生方からの要望でもある。年間1回しか刊行されない本誌は、学術刊行物とは見做されないとの見方がある。事実、かつて大学所属の先生から寄稿を断られた、悔しい思い出がある。この問題は、社保研究会の講演を原稿源とする本誌では、おのずから限界があろう。

29年の歩みを懐古しつつ、積み残された懸案を振り返ってみた。今回、刊行された29巻を通読すると、多彩な論文を集めた、読み応えのある医学雑誌となっている。研究会に依存する現システムの、むしろ長所が顕れたというべきか。

〔高橋 英世〕

編 集 委 員 (50音順 *印委員長)

池 山 淳 粥 川 裕 平 杉 藤 徹 志*
高 橋 英 世 野 村 博 彦 松 本 美 富 士

明日の臨床

Vol. 29 No. 1

2017年6月25日発行

編 集 明日の臨床編集委員会

発行所 愛知県保険医協会

〒466-8655 名古屋市昭和区妙見町19-2

☎(052) 832-1345

制 作 (株)東海共同印刷

頒価 1,000円・発行部数 7,000部